

授業科目名	【G】 プレゼミ I	区分	必修	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	法学部生としての基礎トレーニング			担当者	勝田 小林 手塚 福島 渡邊 今井 清水 田中 百合草 伊禮			
授業概要	【概要】	この授業は、これから法学部生として学んでいくために必要な基礎力を身につけるための演習です。他の科目(特に専門科目)を受講中に生じた疑問の解消や、各自が抱える問題(例えば「勉強がはかどらない」など)の解決のためにも、この演習を活用して下さい。						
	【到達目標】	この科目の受講を通じて… ① 法学／法律学に興味をもつこと ② 学習に必要な基礎的素養を身につけること ③ 疑問点・問題点を放置しない習慣をつけること …を最低限の目標として掲げます。これらの目標に到達することは、法学／法律学と本格的向き合う準備することと言えるでしょう。						
履修条件	特にありません。ただし、必ず指定されたクラスで受講してください。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【○】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との 関連性	在学中に履修する様々な専門科目(法律科目)に関連する内容となります。							
教科書	各クラス担当者が必要に応じて授業中に指示・紹介します。							
参考書	各クラス担当者が必要に応じて授業中に指示・紹介しますが、他の必修専門科目(憲法概論・民法概論など)の教科書を繰り返し読むことや、六法(入学時に入手した『ポケット六法(令和6年版)』など)で法律の条文を確認する習慣を身につけることも大切です。							
評価方法	授業への参加姿勢(授業中の発言や、他の履修者の発言をしっかりと聴く姿勢など)、課題やレポートの提出状況、小テストの結果など、各クラス担当者から課される内容に対する受講生の取り組みの全てを教員が点数化して評価します。演習科目という特性上、定期試験は実施しません。							
フィードバック 方法	質問・相談等は随時受け付け、回答・対応します。疑問や問題を抱えている場合は、そのことを恥ずかしがらずに、担当教員に相談してみてください。							
評価基準	授業に出席するのみならず積極的に参加し、課題を達成するとともに、学習した内容をよく理解した者はその程度に応じて「S」または「A」、不足がある者はその程度により「B」または「C」とし、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、所定の出席要件を満たさない場合などは「F」とします。							

授業科目名	【G】 プレゼミ I	区分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
		必修				
授業内容	<p>【授業を通じて学ぶ事柄の例】※これら全てを授業で取り上げるわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学系科目における授業の受け方とノートのとおり方・作り方</li> <li>・法律学系科目の予習・復習の方法</li> <li>・六法の使い方／判例の読み方</li> <li>・法律学系科目を学ぶに際しての図書館の活用法</li> <li>・法律学系科目におけるレポート作成</li> <li>・法律学系科目におけるプレゼンテーション</li> </ul> <p>【授業の形式と素材】</p> <p>演習科目ですから担当者からの一方的な説明だけではなく、受講生の皆さんにも「わからないことは質問する」「自分の意見を述べる」といった能動的で積極的な姿勢が求められます。 この演習で取り上げる素材は各クラス担当者が用意しますが、「新聞記事から法律学の基礎に触れる」「映画やドラマを通じて法学を身近に感じる」といった方法もあり得ますので、受講生の皆さんも希望や意見があれば積極的に担当者に伝えて下さい。</p> <p>【アクティブラーニング】</p> <p>この科目は演習科目ですから、講義科目以上に履修者の皆さんが積極的・能動的に取り組む必要があります。なお、具体的なアクティブラーニングの手法等についてはクラスによって異なります。</p>					
予習内容	<p>必要に応じて毎回指示しますが、具体例は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考書の指定された範囲の通読や語句確認</li> <li>・発表資料(レジュメ)の作成 …等</li> </ul> <p>授業ごとの予習時間は「授業1回分と同程度」を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>必要に応じて毎回指示しますが、具体例は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布された資料の再読や不明点の再検討</li> <li>・発表資料(レジュメ)の改訂</li> <li>・質疑応答で回答できなかった部分の再検討 …等</li> </ul> <p>授業ごとの復習時間は「授業1回分と同程度」を目安としてください。</p>					
その他	<p>遅刻や欠席は本人にとって非常に不利となります。時間厳守で、積極的・主体的に授業に参加して下さい。</p>					